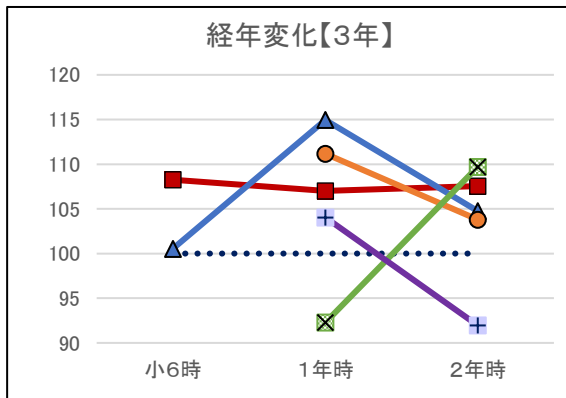
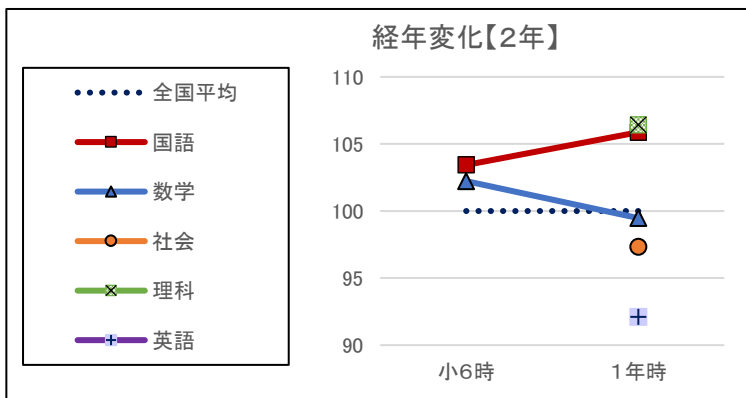


I 前年度の各種調査から見られる学校の状況

① 標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）

※釧路市では、1～2年生を対象に国語と数学で標準学力検査を実施していますが、本校では、独自に社会、理科、英語においても実施しています。



② 学校の状況

学力調査の結果では、「知識・技能」、「短答形式」、「選択形式」の問題の正答率が全国平均を上回っている教科が多いことから、基礎・基本を定着する取組（繰り返し行う学習）に一定の効果が認められる。一方で、「活用」や「思考力・判断力・表現力」、「記述形式」を問う問題の正答率が全国平均より低い教科が多いことから、表現力を育成する取組（データを基に規則性を見出す、理由を文章で説明する）に課題があることが明らかになった。

「知識・技能」の確実な定着とあわせて、それらを活用・応用していく「思考力・判断力・表現力」を子どもたちに育成していくことができる授業づくり、学習指導の充実を図っていくことが必要である。

生活行動・学習活動調査の結果からは、「友達、家の人、先生から認められている」と考えている生徒の割合が全国平均より高く、周囲の人間関係には概ね満足していると考えられるが、「自分のことが好きである」「自分にはいいところがある」と考えている生徒の割合が全国平均より低い。

これらの結果から、「活用を要する問題に対する具体的な解答プロセス」、「根拠に基づき自分の考えを表現する学習」、「自他ともにも認め合うことができるよう、学習活動全般を通したメタ認知能力の育成」の充実を図っていく必要がある。

II 今年度の学力向上に係る重点取組

① 学校全体での取組

授業づくり	学習集団づくり	学習習慣・環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員一人一人が授業の展開について課題を設定し取り組み、授業アンケートなどの結果を受け確実に授業改善を進める。 ・ 小学校と合同で研修を行い、阿寒地域共通の課題である表現力の育成に努める。 ・ 他者意見の参照や交流など、全教科で考えを深めるためにICTを活用する。 ・ 表現力を育むため、口頭での説明や対話活動、記述により考えを他者に伝える活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「板書を取る」「教師の話を聞く」「分からないことを質問する」など、授業規律が定着しているため、今後も学習規律の徹底を行う。 ・ 他者の良さを認めたり、肯定的に受け止めたりするなど安心して学習することができる集団づくりを進める。 ・ 他者と協働して、問題に対して課題解決に向けて粘り強く考え抜く集団の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の朝読書やビブリオバトルの取組により、読書に興味を持つ生徒が多く、習慣として身に付き始めている。今後も生徒が読書に触れることができる機会を確保する。 ・ 家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多いため、宿題、課題から個別の状況を把握して必要な課題を与えることで、個人の課題を解決していく習慣を身に付けさせる指導を行う。 ・ SNSの利用時間や、就寝時間など、家庭と連携しルールの設定をすることで、生活習慣の定着を図る。

② 各教科での指導の重点

国語科の重点	
<ul style="list-style-type: none"> 2,3年とも文学作品を読み取る力の向上を図る。読み込みの力を育成するために、文章全体の構造や各段落の役割について論理的に理解できるように授業内での演習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年については文学的作品の面白さや、読み込みの視点について興味を引くような投げかけを行い、作品を読むと言うより話の展開から物語の世界観に触れることを意識した読解力を養う。
数学科の重点	
<ul style="list-style-type: none"> 2,3年生とも関数の式とグラフの関係の定着に課題が見られることから定期的に復習を行い、知識・技能を習得できるようにする。また、2年生は図形を図示することや、3年生は式の計算や方程式の複雑な操作が必要となる計算の技能向上に向けて繰り返し取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝え合う活動を通して、自身の考えをより深く見つめることができている。一方で、数学の用語などを用いた説明の仕方に慣れていないため、書く場面で自分の考えを表現することに課題がある。テンプレートを提示しながら説明の書き方に慣れるように授業で取り組みを行う。
社会科の重点	
<ul style="list-style-type: none"> 1,2年生とも地理的分野においては、基礎的な知識をもとに、地図・グラフなどを関連させて判断する場面を單元ごとに意図的に取り入れる授業づくりを行う。また、判断した理由を対話することにより深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 1,2生とも歴史的分野においては、その時々々の歴史的事象が持つ意味を考える場面をまとめの段階で取り入れる。また、年表、資料(写真や表)などから判断したり、考察したりする場面を授業で意図的に取り入れる。
理科の重点	
<ul style="list-style-type: none"> 2年生においては、基礎的事項は身に付いているが、思考力や数量的な計算問題に課題が見られる。授業では全学年において基礎的事項を重視しつつ、対話を多く取り入れた実験の考察の時間を確保し計算問題の演習を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生においては、基礎的事項は身に付いているが、表現力や活用力、応用問題、問題文の読み取りに課題が見られる。授業では全学年において、自然現象やその考察をしっかりと文章化させ、発表の機会も多く設ける。
英語科の重点	
<ul style="list-style-type: none"> 2年生においては、様々な英文の聞き取りの力はある。場面に応じて書く英作文に大きな課題がある。語順は身に付いているので、短文から書く練習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生においては、語形の知識・理解、様々な英文と長文の読み取り、3文以上の英作文は身に付いている。単語の並べ替え、場面に応じて書く英作文に大きな課題があるので、基本的な語順を定着させ、意味のかたまりを組み合わせて書く練習に継続して取り組む。
音楽科の重点	
<ul style="list-style-type: none"> 歌唱においては、意欲的に歌うようになってきたが、高い声の出し方がまだ安定していない。発声での響く声を歌唱に生かせるよう継続して指導していく。 音楽用語の基本が身に付き、楽譜の読み取りができるので、表現する機会を多く設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーでは、スモールステップで練習を進めていることで、苦手意識もなくなり、どの生徒も自主的に練習ができる。楽しんでリコーダー演奏に取り組めるよう継続して指導していく。
体育科の重点	
<ul style="list-style-type: none"> 球技やダンスなどの集団種目に積極的に取り組み、生徒同士で教え合う対話的で主体的な学習が成立している。今後もICT機器を有効に活用して、課題やポイントなどをペアやチームで交流することで、学びが深まるよう支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国体力・運動能力調査の結果から、柔軟性、持久力が低いことがわかった。準備運動などで柔軟体操や持久力系運動を継続して行っていく。経年変化から改善の兆しは見とれるので、活動時間の確保と継続した取組をしていく。
美術科の重点	
<ul style="list-style-type: none"> 全学年では、学習課題を理解し作品制作の構想段階での自分なりの発想を確かなものとするために、ICT機器を用いて関連する内容を調べ、制作の構想を練り、生徒が互いに意見交換できる場を設定する。鑑賞では、美術作品の美しさを感じ取り、自分なりの考えを発表し合い、他の感じ方を理解して鑑賞を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 2,3年生の表現では、学習課題を十分に理解し、感じたことをどのように表現するかICT機器を用いて技法などを調べ、生徒が互いに意見交換して自分の想いを表現する場の設定をする。鑑賞では、日本の伝統美術と西洋の美術作品のよさを感じ取り、美しさの仕組みに気づき、様々な表現について理解を深められるような取組を行う。
技術・家庭科の重点	
<ul style="list-style-type: none"> 技術科では、実生活に関わる内容が多いため、身近なものの仕組みなどを紹介する活動を行う。今後は身近な課題の解決を目標とする授業を行う。また、ICTを用いて作業の様子や植物の成長を記録し、振り返りを行うことで、計画や作業内容を修正する能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭科では、学習内容が実践につながるよう、実生活と照らし合わせながら学習を進めた。裁縫においてはICTを活用し、細かい作業を拡大した映像でわかりやすく説明することができた。今後も生活に結びつき、自分事として考えられるような実践を交えた授業を展開する。